

SHOWA UNIVERSITY NEWS

12 DEC. JAN. 1
2024-2025

昭和大学新聞
通巻 第623号 (隔月発行)

2025年 年頭のご挨拶
薬学部創設60周年記念講演会・懇親会



2025年 年頭のご挨拶



学校法人昭和大学 理事長

小口 勝司

新年おめでとうございます。

昭和大学は、2025年度より校名を「昭和医科大学」に改称します。「医系」の総合大学であることを明瞭にし、広く社会へ発信するとともにさらなる発展を目指します。昨年末、本学の特色である4学部合同の医療人教育の場となる鷺沼キャンパス整備工事が着工しました。開設予定の2027年度には新たに保健医療学部医療技術学科、昭和医科大学附属横浜看護専門学校の設置を計画しております。これらは2028年の創立100周年記念事業の一環です。その先の100年に向け新たな第一歩を踏み出して参ります。

本年が実り多き飛躍の年でありますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。



昭和大学 学長

久光 正

明けましておめでとうございます。

本学は2025年4月1日に法人名ならびに学校名を昭和医科大学に改称いたします。医系の総合大学であることが校名から推量しやすくなることを期待しています。また、2028年に本学は創立100周年を迎えます。多くの記念事業を学内外の皆様と心をつなげて遂行いたします。皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

本年は「巳年」です。生命力、長寿を象徴する年でもあり、昭和医科大学のスタートに相応しい年です。皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

2	Greetings 年頭のご挨拶 小口 勝司 理事長 久光 正 学長
4	Special Feature 薬学部創設60周年記念式典
6	Press Release 富士山麓の自生ランをサンプル活用し ラン科イチヨウラン属を分類学的再検討 画像解析で米Parexel社と研究契約を締結 骨粗鬆症治療効果の解析を目指す ASD特有の脳回路を判別する分類器を開発 診断補助ツールとして実用化に期待 ほか
11	News & Topics 公開講座実施報告 北京大学口腔医学院学部長等が来訪 武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式 富士吉田新実習棟地鎮祭 ほか
21	Database 令和6年度科学研究費 助成事業採択課題一覧 保健医療学部 富士吉田教育 研究所・法人 6月以降の新規採択課題 入学試験結果 総合型選抜・学校推薦型選抜・卒業生推薦・編入学 医学部附属看護専門学校 大学院保健医療学研究科 永年勤続者表彰
26	Student Life 初年次体験実習報告 「実習を通して学んだ 昭和大学マインド」
28	Meeting Report (学内会議報告)
30	Information

薬学部

創設60周年 記念講演会を開催

11月10日、昭和大学上條記念館にて、薬学部創設60周年記念講演会を開催し、学内関係者および卒業生など多数の方が参加した。

中村明弘薬学部長による開会の挨拶で始まり、小口勝司理事長、久光正学長からの祝辞があった。

続いて、医療の最前線でご活躍の3名の卒業生による講演が行われた。

さらに、昭和大学メディカルデザイン研究所（IMD）所長の安次富 隆教授が「Art (Design) in Healthcare」と題して、特別講演を行った。

引き続き行われた懇親会では「昭和大学50周年記念映像」が放映され、参加者は当時の思い出を語り合った。



卒業生講演：海老沼 徹さん（2012年度卒、45回生）
「6年制薬学教育の成果：薬局薬剤師の役割と挑戦」



卒業生講演：二村 哲未さん（2011年度卒、44回生）
「「将来の夢」を追って」

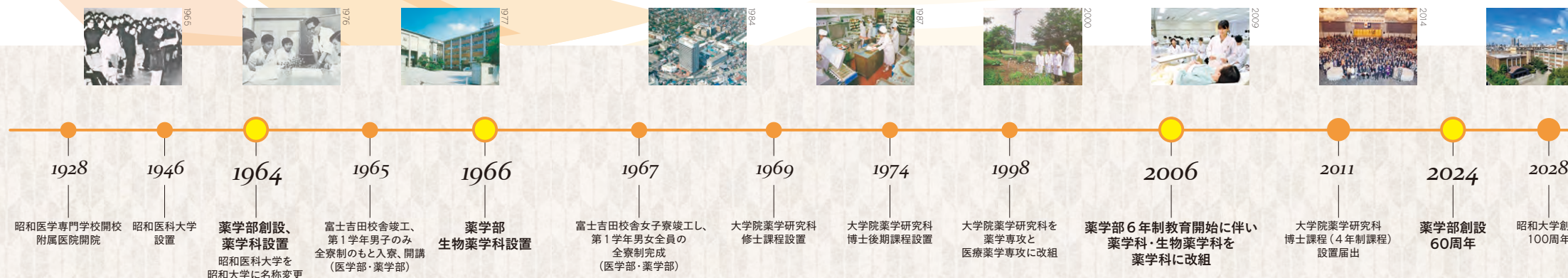


卒業生講演：市村 丈典さん（2012年度卒、45回生）
「医療人としてのプラクティス - 36歳 がん専門薬剤師のケース -」



安次富 隆教授（昭和大学メディカルデザイン研究所 所長）
特別講演「Art (Design) in Healthcare」

昭和大学と 薬学部の歴史





Press Release

昭和大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事をご紹介します。

富士山麓の自生ランをサンプル活用し ラン科イチヨウラン属を分類学的再検討



昭和大学の谷亀高広講師（富士山麓自然・生物研究所）、神戸大学の末次健司教授（大学院理学研究科）などの研究チームは、ラン科イチヨウラン属の分類学的再検討を行い、長らく1種とわれてきたイチヨウラン属は、実は2種から構成されることを明らかにした。

ラン科イチヨウラン属は、イチヨウラン (*Dactylostalix ringens*) のみで構成される単型属とされていた。しかし研究結果から、かつて*Pergamena uniflora*として記載され、その後はイチヨウランと同種と扱われてきた個体群を、新たに*Dactylostalix uniflora* (タカネイチヨウラン) として区別するのが妥当と判断した。

ラン科は、全世界に25,000～30,000種から成る、被子植物の中でも最も大きなグループの一つとして知られ、日本にも約75属230種が自生している。

本研究の対象であるラン科イチヨウラン属 (*Dactylostalix*) は、Reichenbachによって1878年に立てられ、今日までに千島列島から、日本にかけて分布することが確認されている。本州中部では標高800m～2,400mの山地～亜高山帯の苔むした林床に自生し、山梨県下では5月～8月にかけて亜高山帯の森林を散策すると、本属植物の花に出会うことができる。

かつてFinet(1900) は、花がより小さく、がく片に黒紫色の斑点がない上、花弁の側裂片が小さいなど、花の形態的特徴がイチヨウラン (*Dactylostalix ringens*) (図1A) と異なる個体を見出しており、*Pergamena uniflora* (以下、*P. uniflora*) という名で記載していたが、その後、*P. uniflora*はイチヨウランと同種として扱われるようになった (Freudenstein 1994 ; Freudenstein et al. 2005)。

しかし、神戸大学、大阪府立大学、昭和大学、国立科学博物館、東北大学の研究者による共同研究の結果、*P. uniflora*を*Dactylostalix uniflora* (タカネイチヨウラン:図1B) とし、分類上別種として再整理するのが妥当と判断した。それは、上記にある形態



図1A: *Dactylostalix ringens* (イチヨウラン) 富士山周辺では、標高1,500～2,200m付近に自生。花には黒紫色の斑紋が多く、唇弁の両側面の切れ込みが顕著なのが特徴。



図1B: *Dactylostalix uniflora* (タカネイチヨウラン) 本論文で、種として再整理された。富士山周辺では、標高2,200～2,400m付近に自生。花には黒紫色の斑紋が少なく、唇弁の両側面の切れ込みが少ない、もしくはほとんど目立たない個体があるなど、形態的にばらつきがある。

的特徴に加え、ゲノムワイドマーカーを用い系統解析を行い、さらに一塩基多型 (SNPs) に基づくNeighbor-Net networkにより解析した結果、2種が異なる進化の道筋をたどったことが明らかになったためである (図2A, B)。

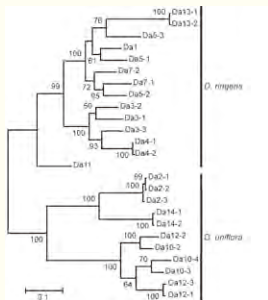


図2A: イチヨウラン (*D. ringens*) およびタカネイチヨウラン (*D. uniflora*) のMIG-seqデータによる系統樹。

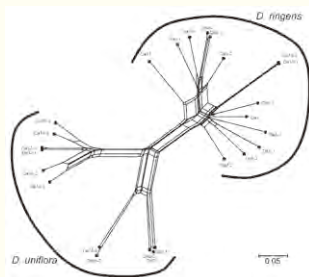


図2B: イチヨウラン (*D. ringens*) およびタカネイチヨウラン (*D. uniflora*) における3,489遺伝子座、6,062の一塩基多型 (SNPs) を基にした、Neighbor-Net network

また、イチヨウランは、富士山周辺では標高800m～2,200mの山地から亜高山帯に自生するが、新たに別種として認識されたタカネイチヨウランは2,200m～2,400mの亜高山帯に自生。また、イチヨウランが5月上旬から開花するのに対し、タカネイチヨウランは7月以降に開花するなど、開花期も異なっている。富士山麓には2種とも自生しており、本研究のサンプルとして活用されている。

本研究により、長らく1種とわれてきたイチヨウラン属は、実は2種から構成されることが明らかになった。

リリース時タイトル／1属1種だと思われていた野生ランが、実は2種だった！～ラン科イチヨウラン属の分類学的再検討～

掲載誌／Phytotaxa

論文名／Taxonomic revision of the formerly monotypic orchid genus *Dactylostalix*

著者／Kenji SUETSUGU, Shun K. HIROTA, Takahiro YAGAME, Tomohisa YUKAWA, Yoshihisa SUYAMA

掲載日／2024年7月5日

DOI／10.11646/phytotaxa.652.2.1

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 富士山麓自然・生物研究所 講師 谷亀 高広 (やがめ たかひろ) TEL: 0555-24-1186 E-mail: yagame_showa@cas.showa-u.ac.jp / 神戸大学 神戸大学大学院理学研究科 教授 末次 健司 (すえつぐ けんじ) TEL: 078-803-5713 E-mail: kenji.suetsugu@gmail.com

画像解析で米Parexel社と研究契約を締結 骨粗鬆症治療効果の解析目指す



昭和大学（東京都品川区、学長：久光正）の石川紘司講師（医学部整形外科科学講座）を代表とする研究チームは、Parexel International（米国マサチューセッツ州、CEO：Peyton Howell）と骨粗鬆症治療が骨の強度に及ぼす影響を解明するため、研究契約を締結した。

■本取り組みの背景と目的

日本における超高齢社会は世界的にも類をみない環境にあり、さらに加速することが予想される。同時にこの傾向は世界的に進むことが予想され、健康寿命の延伸は世界規模の課題である。

高齢者の重要な疾患の1つに、骨が弱くなる「骨粗鬆症」があげられ、骨折やフレイル（筋力の低下）のみならず、寿命にも影響が及ぶことがわかっている。さらに、昨今の研究により「骨粗鬆症」は整形外科の手術成績にも悪影響を及ぼすことが報告され、新たな対策が求められている。

石川講師は、骨脆弱性の強い患者の手術成績を向上させるための1つの手段として、「骨粗鬆症薬物療法」の役割を研究してきた (https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/jsp2.1356)。今回の研究では、これまで蓄積してきたデータと独自の手術に特化した解析手法を応用し、骨粗鬆症治療が骨の強度に及ぼす影響を解明することを目指す。



昭和大学
医学部整形外科科学講座
講師 石川 紘司

生体患者の骨を機械的にテストすることは不可能であるため、研究チームは、治療効果を把握するために、画像に基づく仮想応力テストを利用する。

石川講師率いる研究チームには、Biomechanics^(※1)を医学研究に応用した第一人者であるカリフォルニア大学バークレー校のTony M. Keaveny教授など、国際的なメンバーが集合してお

り、Parexelは本研究のサポート・コーディネートを行う。それぞれが特色を生かすことで、手術成績の向上につながる新たなエビデンス創出を目指す。この研究は、アムジェン社がスポンサーとなっている。

リリース時タイトル／昭和大学がParexel Internationalと研究契約を締結 一超高齢社会における安全な手術を目指す

用語解説

※1 生体内にかかる力を、骨や筋肉の内部組織の構造にまで着目して分析する「生体力学（バイオメカニクス）」のこと。

研究名／日本人女性骨粗鬆症患者におけるロモソズマブの骨強度に及ぼす影響 Characterization of the effect of romosozumab on bone strength by BCT on spine and hip computed Tomography images in Japanese women with osteoporosis. (BCT: Biomechanical Computed Tomography analysis)

研究責任者／昭和大学 医学部整形外科科学講座 講師 石川 紘司

参考

■Parexel Internationalの概要

所在地：2520 Meridian Parkway, Durham, NC 27713 USA

事業内容：モニタリング業務を含めた臨床試験のフルサポート、薬事コンサルティング、メディカルライティング、データマネジメント、統計解析、監査 (GPC、臨床研究)、国内管理人業務等

webサイトURL：https://www.parexel.com/japan

■Amgenの概要

所在地：1 Amgen Center Dr, Thousand Oaks, CA 91320

事業内容：アムジェンは、治療が困難な疾患と闘う世界中の何百万人もの患者さんを支援するために、革新的な医薬品を発見、開発、製造、提供している。アムジェンは40年以上にわたりバイオテクノロジー産業の発展に貢献しており、テクノロジーとヒト遺伝子データを活用し、知識のフロンティアを切り拓いて前進することで、イノベーションの最前線に立ち続けている。アムジェンは、がん、循環器疾患、骨疾患、炎症・免疫性疾患および希少疾患の治療を目指し、既存の医薬品ポートフォリオを基盤として、広範かつ豊富なパイプラインを展開している。

webサイトURL：https://www.amgen.com/

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 医学部整形外科科学講座 講師 石川 紘司 (いしかわ こうじ) E-mail: koji.ishikawa@med.showa-u.ac.jp

ASD特有の脳回路を判別する分類器を開発 診断補助ツールとして実用化に期待



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の板橋貴史講師（発達障害医療研究所／所長：太田晴久）らの研究グループは、国内の連携多施設で収集した成人自閉スペクトラム症 (ASD) の安静状態における機能的結合のデータから、機械学習法を用いて、世代に共通の脳機能結合の特徴を捉えることに成功した。本研究結果は英科学誌の『Molecular Psychiatry』(2024年9月28日オンライン掲載)に掲載された。

■研究の背景・目的

ASDは、遺伝的要因、環境的要因、性差など様々な要因が影

響しているため、ASD特有の脳回路の特徴を明らかにすることは困難であると考えられてきた。とくに、発達期の要因が脳回路に与える影響は大きく、ASDは発達軌跡が定型発達者と違う可能性があるため、児童から成人に至る発達期に共通したASDの特徴を見出すことは困難だった。これまでASDの診断を脳回路から予測する分類器は開発されていたが、異なる施設や異なる発達期のデータに対して一定以上の精度を示す分類器はなかった。

本研究では、まず、国内の複数施設で収集された日本成人のfMRIデータ（総数730例）から施設間差を除去する調和法^(※1)を適用した。次に、機械学習手法を適用することにより、個人の脳

回路に基づき定型発達者とASD当事者を判別する分類器を開発した。さらに、開発された成人の分類器が、児童・青年期のデータにも適用可能かを検証した。

■研究成果の概要

国内730例の機能的結合データを基に機械学習を用いて、ASD当事者と定型発達者を区別する分類器を構築し、訓練データセットでの精度はAUC=0.84^(※2)だった。次に、この分類器の汎化性能を評価するために、欧米の施設で収集されたABIDEデータ（121例）^(※3) およびAMEDプログラムのデータ（163例）に適用し、AUC=0.70～0.78の精度で判別できることを確認した。また、成人期の分類器が児童期および青年期のASDデータにも適用可能かどうかを検証するため、国外の児童期・青年期の研究参加者665例に対して分類器を適用し、AUC=0.66～0.71の精度で判別できることが示された。

さらに、脳全体の機能的結合の中から、ASDの診断予測に貢献する141個の結合を特定した。これらは、デフォルトモードネットワークや皮質下ネットワーク、前頭頭頂ネットワークといった重要な機能ネットワーク内およびネットワーク間の結合であり、ASDに関連する特徴的な脳回路を形成している。また、141個の結合のうちいくつかは、自閉症診断観察検査（ADOS）の意思伝達・対人関係の症状と関連していることが示された。加えて、141個の機能的結合が神経伝達物質であるドーパミン（D1、D2受容体）やセロトニンと関係することも明らかにされた。

■今後の展望

本研究で開発された分類器は、ASDの脳回路メカニズムに関する理解を深めるだけでなく、ASDの診断精度を向上させるソー

ルとして期待される。また、分類器が捉えた特徴に基づくさらなる今後の研究により、ASDの診断補助としての実用化の可能性だけでなく、ASDの新たな生物学的サブタイプの同定などが期待される。

リリース時タイトル／機械学習法を用いて自閉スペクトラム症の世代に共通する脳機能結合の特徴を発見

用語解説／

- ※1 異なった施設で取得したMRIデータには、MRI装置、撮像方法の違いによって生じる施設間差が生じる。調和法とは、異なった施設で取得したデータを調和させ、施設間差を取り除くことで、均質なデータとする方法。
- ※2 Area Under the Curveの頭文字をとって略した単語。2つの群を分類する手法の精度を評価する指標となり、0から1までの値をとる。1に近づけば近づくほど、優れた分類方法であることを表す。
- ※3 Autism Brain Imaging Data Exchangeの頭文字をとって略した単語。欧米の複数施設でASD当事者および定型発達者から収集したMRIデータを公開している。

雑誌名／*Molecular Psychiatry* (impact factor 2023：9.6)

論文名／Generalizable and transportable resting-state neural signatures characterized by functional networks, neurotransmitters, and clinical symptoms in autism

著者名／Itahashi T, Yamashita A, Takahara Y, Yahata N, Aoki YY, Fujino J, Yoshihara Y, Nakamura M, Aoki R, Okimura T, Ohta H, Sakai Y, Takamura M, Ichikawa N, Okada G, Okada N, Kasai K, Tanaka SC, Imamizu H, Kato N, Okamoto Y, Takahashi H, Kawato M, Yamashita O, and Hashimoto R

掲載日／2024年9月28日

DOI／10.1038/s41380-024-02759-3

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 発達障害医療研究所 講師 板橋 貴史（いたばし たかし） TEL：03-5315-9357 E-mail：itapan322@gmail.com

べ、メスに特徴的である、Ⅳ型コラーゲンが保存された領域と欠損した領域の基底膜病変を観察する手法を開発した。さらに、その病変をAIに深層学習させて自動検出することに成功した。AIが診断したメスマウスの腎臓病変の定量値は、タンパク尿濃度と正の相関関係を示したことから、本手法が、女性のアルポート症候群患者の腎臓機能の予後予測に有用であると期待される。

掲載誌／*American Journal of Pathology*

論文名／A novel deep learning approach for analyzing glomerular basement membrane lesions in a mouse model of X-linked Alport syndrome（深層学習によるX染色体連鎖性アルポート症候群モデルマウスにおける糸球体基底膜病変の解析法の開発）

乳がん治療薬点滴中の「手指しびれ」を予防する冷却手袋を開発、2025年発売予定

昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の木内祐二教授（薬理科学研究センター）、佐々木晶子講師（同）、宇高結子講師（同）、柴田佳太准教授（同）らの研究グループは、抗がん剤による副作用のしびれである化学療法誘発性末梢神経障害（CIPN）を予防する冷却手袋を昭和大学と企業2社（アズワン株式会社、フットマーク株式会社）と共同開発し、本研究結果は第62回日本癌治療学会学術集会で発表された。

乳がん治療のために使用する微小管阻害薬（タキサン系抗がん剤）は、有害事象として化学療法誘発性末梢神経障害（CIPN）による手指のしびれを引き起こす。CIPNは、患者の生活の質を低下させるだけでなく治療中止の要因となるが、未だにCIPNを抑制するための有効な方法が確立されていない。

今回、CIPN予防法のひとつとして手指冷却法が予防に有効であることが報告された（Hanai et al. JNCI, 2017）。手指冷却法とは、血管を収縮させることで血流の流れを遅延させ、抗がん剤を末梢に届さにくくさせる手法である。

本研究開発は、産官学連携プロジェクトとして昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）と企業2社（アズワン株式会社、フットマーク株式会社）と共に実施された。

抗がん剤治療中は片方の手が点滴で固定されているため、保冷剤を取り替える作業が難しく、保冷剤が手指から離れてしまう課題があった。しかし、本研究開発の冷却手袋装着中は、保冷剤を容易に取り替えられるとともに、患者が治療中眠ってしまっても保冷剤が手指から離れることなく保冷効果を保つことができ、手指の血管を収縮し続けるため、しびれの予防効果が期待できる。

冷却手袋はフットマーク株式会社が開発し、手袋の内側には冷感素材を使用している。素材に付着した水分が蒸発する際、気化

著者名／Kunio Kawanishi , Masaki Baba, Ryosuke Kobayashi, Ryotaro Hori, Kentaro Hashikami, Kenta Danbayashi, Takako Iwachido, Mitsuyasu Kato

掲載日／2024年10月17日

DOI／10.1016/j.ajpath.2024.10.004

研究代表者／筑波大学医学医療系 川西 邦夫 助教（研究当時、現：医学部解剖学講座顕微解剖学部門 准教授）

研究資金／本研究は、科学技術振興機構報（JST）筑波大学START大学推進型（「つばさ」事業：JPMJST2052）、筑波大学「幸多き人生100年時代を創る『知』活用プログラム」、および、一部、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED：JP23wm0325066）の支援を受けて行われた。また本研究は、筑波大学とAxcelead Drug Discovery Partners株式会社との研究試料の提供に関する覚書に基づいて実施された。

本件に関する問い合わせ先／昭和大学医学部解剖学講座顕微解剖学部門准教授 川西 邦夫（かわにし くにお） TEL：03-3784-8104 Email：kukawanishi@med.showa-u.ac.jp



左から柴田佳太准教授、宇高結子講師、佐々木晶子講師、木内祐二教授

熱が発生して生地温度が低下する機能を備えている。保冷剤はアズワン株式会で開発し、一般医療機器クラスIで申請予定。2025年発売に向けて準備している。

リリース時タイトル／抗がん剤の副作用しびれを予防する冷却手袋を開発

共同研究グループ／

- ・アズワン株式会社 メディカルPB開発グループ：大谷 匡史
- ・フットマーク株式会社 健康快互事業部：田中 茂
- ・昭和大学 薬理科学研究センター：木内 祐二、佐々木 晶子、宇高 結子、柴田 佳太、栗根 大輝

研究支援／本研究は文部科学省科学研究費助成事業（基金）による助成を受けて行われた。

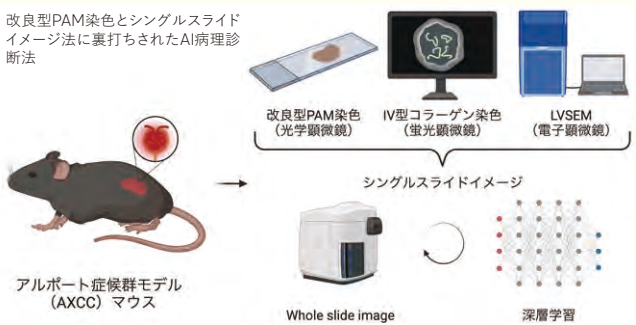
本件に関する問い合わせ先／昭和大学医学部薬理学講座医科薬理学部門 佐々木 晶子（ささき あきこ） TEL：03-3784-8125 E-mail：sakiko@med.showa-u.ac.jp

遺伝性腎疾患の病理診断にAIを活用する新たな手法を開発

昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の川西邦夫准教授（医学部解剖学講座顕微解剖学部門、筑波大学非常勤研究員）を中心とする研究グループは、遺伝性腎疾患アルポート症候群のモデルマウスを用いて、糸球体基底膜の病変を可視化する新たなイメージング技術を開発した。さらに、その病理画像データをAIに深層学習させることにより、病変の自動検出が可能となった。

アルポート症候群は、腎臓機能障害、感音性難聴、眼球異常を伴う遺伝性疾患である。腎臓では、初期には血尿、次第にタンパク尿が出て、ついには末期腎不全となり、透析や腎臓移植などの腎代替療法が必要になる。

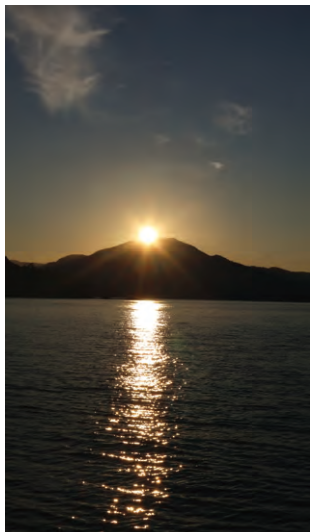
アルポート症候群の正確な有病率は不明だが、X連鎖性の遺伝形式（X染色体上の遺伝子の変異により発症する）が最多で、X染色体が一つである男性（XY染色体）の方が、X染色体を二つ持つ女性（XX染色体）よりも重症となる。一方、男性よりも軽症とされる女性のX連鎖性患者だが、米国やわが国の臨床研究に



より、全体の15%程度が40歳までに末期腎不全に至ることが報告されている。アルポート症候群の診断には、遺伝子解析と腎臓組織の病理診断が必要だが、女性患者では腎予後の予測が難しく、予後を改善するとされる降圧剤などの腎臓保護的な治療介入の是非を判断するための指標が求められている。

本研究グループは、アルポート症候群を模倣するモデルマウスを用い、オスとメスの比較や、メスの腎臓病変の詳細について調

表紙用応募作品紹介



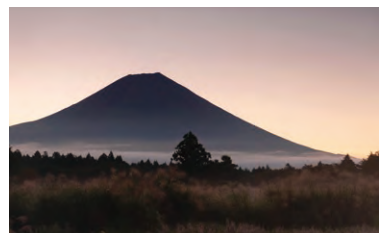
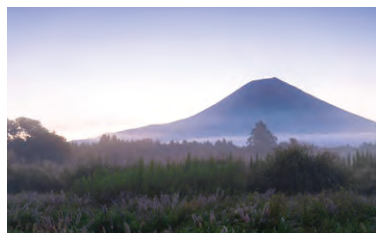
広島県厳島神社(左) 愛媛県今治市伯方島(右)

職員(藤が丘リハビリテーション病院・看護師)
大瀬 利恵



富士吉田教育部 (富士吉田校舎グラウンド付近)

職員(富士吉田教育部・研究補助員)
安齋 若子



朝霧高原(静岡県富士宮市)

職員(ストレスマネジメント研究所・助教)
倉田 由美子

昭和大学北岳診療所から撮影した富士山

職員(昭和大学病院臨床病理診断科・助教)
村井 聡



山梨県忍野村

職員(江東豊洲病院・臨床検査技師)
大矢 和博



News & Topics

2024.10.12~11.23

地域貢献に向け今年も活況を呈す 一般に向けた公開講座を開講

秋期公開講座が10月から11月にかけて各施設で開講。各講演終了後には、参加者から多数の質問があり、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和大学公開講座は来年度春期の開催を予定している。

旗の台キャンパス

開催日	11月9日	テーマ	暮らしと健康 ～健康寿命を延ばそう～
講演内容	「健康寿命を伸ばす「賢い生活の知恵」」 山岸 昌一(医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 教授)		
	「健康で長生きするための運動について ～自宅内でのトレーニングからウォーキングのコツまで～」 本島 直之(藤が丘リハビリテーション病院/保健医療学部 リハビリテーション学科 講師)		
	「生活習慣病を防ぐ健康的な食生活 ～今日から実践できる食生活の工夫～」小川 知里(昭和大学病院 管理栄養士)		

横浜キャンパス

開催日	11月2日	テーマ	暮らしと健康 ～シンプル思考で治す肩関節～
講演内容	「五十肩、肩こり、腱板断裂… 肩回りで苦しむ人の改善策、全て教えます!!」 西中 直也(保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻教授 整形外科医)		
	田村 将希(昭和大学スポーツ運動科学研究所講師 理学療法士)		

富士吉田キャンパス

開催日	11月9日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「ここからからだも健やかに! ～ストレスとの付き合い方～」 穂坂 路男(勝山診療所 院長・昭和大学 客員教授)		
	「暮らしの中の動物たち ～出会う喜び・知る楽しみ～」 植田 彩容子(昭和大学富士山麓自然・生物研究所 講師)		

藤が丘病院

開催日	11月23日	テーマ	動いて! 食べて! 毎日のフレイル対策
講演内容	「知ることで守る! フレイルなんて怖くない! 毎日の生活で撃退!」 川手 信行(藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション科 教授)		
	「フレイルによる転倒を防ごう! ～転ばない身体づくり～」 渡部 喬之(藤が丘リハビリテーション病院 作業療法士)		
	「食べて守る健康! フレイル予防の栄養法」 中村 晃洋(藤が丘リハビリテーション病院 管理栄養士)		

横浜市北部病院

開催日	10月12日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「白内障手術で、メガネ無し生活に! ～老眼鏡もいらなくなる白内障手術～」 藤澤 邦見(横浜市北部病院眼科 教授)		
	「サルコペニアとフレイルに立ち向かう! 健康維持のためのセルフマネジメント」 石原 剛(横浜市北部病院リハビリテーション室 技師長)		



1 旗の台キャンパス公開講座 2 横浜キャンパス公開講座 3 富士吉田キャンパス公開講座
4 江東豊洲病院公開講座 5 藤が丘病院公開講座 6 横浜市北部病院公開講座 7 烏山病院
公開講座 8 歯科病院公開講座

江東豊洲病院

開催日	10月14日	テーマ	健康と手をつなぐ
講演内容	「からだのサインを見逃さない! 手足の症状からわかる脳神経疾患」 栗城 綾子(江東豊洲病院脳神経内科 准教授)		
	「手は症状を写す鏡」 久保 和俊(江東豊洲病院整形外科 准教授)		

烏山病院

開催日	11月9日	テーマ	災害時の備え
講演内容	「災害が起きる前にできること ～もしものときにどうする? 基本の4つ～」 西舘 千栄(烏山病院 看護師 防災士)		
	「災害時のこころのケア」 河嶋 譲(OPAT事務局次長/半蔵門のびすこどもクリニック副院長)		

歯科病院

開催日	10月12日	テーマ	「暮らしと健康」～お口の健康～
講演内容	「精密な根管治療で歯を残そう」 鈴木 規元(歯科病院歯内治療科 教授)		
	「歯周病って、治るんですか?」 山本 松男(歯科病院歯周病科 教授)		
	「健康な歯を目指して～歯磨きで知っておきたい10のこと～」 城生 麻里(歯科病院歯科衛生士)		

学生・教職員の相互交流へ繋げる 北京大学口腔医学院との 協定更新調印式

10月30日、北京大学の学部長等が旗の台キャンパスを訪れ、馬場一美歯学部長への表敬訪問、および学部間協定更新に伴う調印式を行った。

調印式では、出席者の紹介から始まり、両者の教育の取り組みの紹介等を行った後、馬場一美歯学部長とDr. Xuliang DENGが協定書に署名した。

記念撮影



今後、学生交流や教育職員の相互交流を予定している。
来訪者は以下の通り。

- ・ Dr. Xuliang DENG : Dean (学部長)
- ・ Dr. Wenjie HU : Vice Dean in charge of Teaching Affairs (副学部長)
- ・ Dr. Yan WEI : Deputy director, VIP Department, Assistant Dean (学部長補佐)
- ・ Mr. Guotao LI : Director of International Communication Office (国際コミュニケーション室長)

川崎市制100周年記念イベント参加 女性のライフとワークを語り合う

11月3日、本学が協賛している川崎市の100周年を記念するイベント「Colors, Future! Summit2024」が、川崎市内の複数会場にて開催された。

セッションでは「“本音”から切りひらく、女性のライフとワーク」と題して、女性がもっとこちよく暮らせる／働ける未来について、食・美容・メンタルケア・スポーツなど様々な観点から話し合いが行われ、本学から肥田典子教授（薬学部臨床研究開発学）が参加した。

本セッションは中高生を対象としており、参加した学生は、出演者から語られた経験に耳を傾けながら、「健康的に過ごすには眠る

記念撮影



ことが重要」「自分を信じること!」など、熱心にメモを取っていた。
今後、参加者たちのアクションが、新しい川崎の未来に繋がっていくことが期待される。

武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式

11月5日、上條記念館にて令和6年度武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式を挙行了た。

同賞は学生の課外活動において優秀な成績を収めたクラブを表彰するもので、今回で21回目を迎える。

最優秀賞となる武重優秀クラブ賞は、東日本医科大学学生総合大会で3位、首都圏医療系大学大会で2位、全日本医療系大学選手権では優勝し、同大会で2連覇を達成する活躍を見せたアイスホッケー部が受賞した。

各クラブ賞の受賞団体は以下のとおり。

1 表彰の様子 2 代表者による昭和大学宣言
3 表彰式：応援指導部による演舞



武重優秀クラブ賞	優秀クラブ賞		
アイスホッケー部	学長賞：バレーボール部	歯学部長賞：歯学部硬式庭球部	保健医療学部長賞：馬術部
	医学部長賞：医学部軟式庭球部	薬学部長賞：水泳部	学生部長賞：ハンドボール部

冬の本格稼働に向け、 ボイラー祭で安全祈願

令和6年度ボイラー祭を各キャンパスで執り行った。11月7日は旗の台キャンパス（昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院・昭和大学7号館）、11月6日は富士吉田キャンパス、11月14日は横浜キャンパスでそれぞれ祭事を行った。

寒さが日々厳しさを増していく冬に向けて、本学では建物内の空調設備を暖房運転に切り替える。その暖房運転の要となるのがボイラー設備である。

ボイラーの本格的な稼働にあたり、設備の安全運転と職員の健康を祈願した。

※ボイラー祭とは、ボイラー設備がある事業所で行う安全祈願の祭事。
江戸時代、毎年11月8日に行われていた火の神様に感謝する「ふいご祭り」が由来とされている。



1 富士吉田キャンパス（参列者代表：倉地夏樹事務長） 2 横浜キャンパス（参列者代表：鈴木久義学部長） 3 昭和大学病院（参列者代表：相良博典病院長）

富士吉田キャンパス 新実習棟建設工事地鎮祭 施設新築で学習環境の更なる充実を

11月8日、富士吉田キャンパスにて、新実習棟建設工事地鎮祭を執り行った。整備工事の安全祈願が厳かに行われ、着工の準備が整った。

令和8年4月の使用開始を目指して、いよいよ本格的な工事が始まる。

本学の大きな特徴である、「初年次全寮制教育」を担う富士吉田キャンパスの学習環境の更なる向上を図る。



【富士吉田キャンパス新実習棟設計概要】

- ・ 延床面積：2633.27m²
- ・ 建物規模：地上3階（1階：形態機能実習室、2階：多目的実習室、3階：理工学実習室、基礎看護実習室）

未来の医療教育を担う人材育成へ 大学院生対象プログラムを実施

11月9日・10日に「医療人教育演習」（プレFD）を旗の台キャンパス教育研修棟にて開催した。

この演習は、未来の教育者の養成を目的とし、医学・歯学・薬学研究科博士課程、保健医療学研究科博士後期課程の大学院生99人を研究科混成で班分けをし、1日間のプログラムを実施した。

また、学修成果基盤型教育に基づくカリキュラムプランニングについて説明を受けた後、各班に提示された学部合同で実施する科目の「目標・方略・評価」をグループディスカッションによって作成し、全体会で発表・討論を行った。

熱心な討議・発表を通して、教育スキルの修得のみならず、昭和大学の教育の特徴（チーム医療）について理解を深めた。また、職種や専門分野、出身大学等が異なる大学院生同士の貴重な交



流の場にもなり、参加者からは「他学部の大学院生と関わることが普段ないので、とても良い機会だった」「色々な職種の方とディスカッションすることで、新たな気づきが得られてよかったです」などの声が寄せられた。

荏原地区の総合防災訓練に参加

11月10日、荏原第二地区の総合防災訓練に本学の職員が参加した。

この防災訓練は「自分たちのまちは、自分たちで守る」という防災意識の向上、各防災関係機関と住民との協力体制の確立を目的として、品川区防災協議会と荏原第二地区協議会の主催で行われた。雨天のため、時間を短縮しての開催となったが、荏原消防署・荏原消防団・品川区職員の方々の指導のもと、旗の台1丁目町会の方々とともに、消火訓練、防災資機材の取扱い等、実践的な訓練を行った。



1 消防団による放水訓練 2 地震車による震度7の地震体験

永年勤続者表彰式 198名に表彰状と記念品を贈呈

11月12日、上條記念館にて令和6年度永年勤続者表彰式を執り行った。

勤続35年28名、勤続25年42名、勤続15年128名（計198名）に表彰状と記念品が贈呈された。式典後の懇親会では、交流を深める様子が見られた。

※永年勤続者一覧はP26Database欄で紹介



1 表彰式：小口勝司理事長 挨拶 2 表彰式：昭和大学宣言 3 懇親会の様子

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル修了式

看護師がより良く働ける環境整備の実践へ

11月17日、2024年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルの修了式を執り行った。

今年度は53名が全課程を修了し、出席者48名に増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

増田センター長は挨拶で「課程の約4か月間、講義や実習を経て、組織改善計画を立案したと思います。作成された計画書は実践して、患者さんやスタッフ・組織に貢献できて、初めて価値が出てくると思います。1年後、立案した計画の報告会を行い、皆



1 修了証授与 2 記念撮影

さんの成果を報告していただきます。健康に留意しながら、良い看護管理者となることを期待しております」と述べた。

修了生代表は挨拶で「少子高齢化社会で看護師も減っていく中で、今いるスタッフがより長く働けるよう、常に看護師を取り巻く環境を整備して、よりよい看護が実践できるよう、看護管理者として活動していこうと思います」と述べ、決意を新たにした。

冬のキャンパスを華やかに彩る イルミネーション点灯式

11月22日、旗の台キャンパスにてイルミネーション点灯式を執り行った。

学生代表3名がカウントダウンに合わせて点灯スイッチを押すと、中庭を包み込むようにイルミネーションが一斉に輝き、集まった人々から歓声が上がった。

富士吉田キャンパスは11月22日、横浜キャンパスは12月4日にそれぞれ点灯式を行った。

今年も趣向を凝らしたイルミネーションが用意されており、2025年2月まで楽しむことができる。



1 旗の台キャンパス 2 横浜キャンパス 3 富士吉田キャンパス 4 学生による点灯

病院と合同で防災訓練を実施 災害時の病院との連携を強化

11月24日、旗の台校舎において昭和大学病院との合同防災訓練を実施した。

訓練では、大地震の発生により学生や職員、来訪者等が負傷した場合を想定し、旗の台校舎救護所による救護活動について具体的な手順を確認した。

旗の台校舎救護所の要員役として、教育職員6名、事務職員16名が参加した。

大地震により火災や建物の倒壊が発生、多数の負傷者が生じる場合、昭和大学病院には患者さんが殺到することが想定される。そのため、学生や職員、来訪者等が負傷した場合は、旗の台校舎救護所において「軽症者に対する応急手当」「中等症以上の負傷者を対象とした昭和大学病院への搬送」を行い、昭和大学病院と連携して救護活動に当たることを確認した。

また、旗の台校舎救護所の要員は、旗の台校舎での救護活動



1 担架による搬送方法確認 2 昭和大学病院での救護活動 役割確認

が収束したのち、昭和大学病院における救護活動に参加することも重要な役目として担っているため、昭和大学病院に参集してから業務指示を受けるまでの段取りを確認した。

今後、旗の台校舎救護所の機能を充実させるために、トリアージの方法や応急手当の方法等を多くの職員・学生が理解し、実際に行動できるように準備しておく必要がある。

※旗の台校舎救護所では、軽症者に対する応急手当として、ファーストエイド（ガーゼや包帯による傷口の被覆、直接圧迫法による止血、副木や三角巾による骨折の処置など）を行うとともに、一次救命処置（心臓マッサージ、AEDの使用など）を行うことを想定している。

ふるさと会総会を開催

11月29日、昭和大学ふるさと会総会を旗の台キャンパスの上條記念館 富士桜で開催し、ふるさと会会員を中心に約200名が参加し、昨年と比べて100名ほど多く参加した。

ふるさと会会長の久光正学長の式辞に続き、小口勝司理事長からの挨拶、そして、ふるさと会副会長の中村明弘薬学部長の乾杯で懇親会が始まった。

また、各活動地域挨拶では、17地域の代表による「ふるさと紹介」が行われ、ふるさとの魅力を余すことなく説明し、会場は大いに盛り上がった。

各ふるさとを題材としたクイズ大会を行い、多くの方々に参加していただき、大盛況のうちに終了した。



1 式辞：久光正会長 2 挨拶：小口勝司理事長 3 懇親会の様子 4 イベントの様子

ふるさと会は昭和大学の職員・学生をはじめ同窓の方にも広く交流していただく親睦の場。皆様のゆかりのあるふるさと会に気軽に入会が可能。

各活動地域による懇親会は、順次開催される。開催の際には職員・学生の皆さまにご案内いたしますので、会員の方も会員でない方も、ぜひご参加ください。

仲間との温かな灯を胸に宿す 富士吉田ウィンターパーティー

11月22日～24日の3日間、富士吉田キャンパスで「ウィンターパーティー」を開催した。今年のテーマは「灯（ともしび）」で、富士吉田での寮生活の思い出がいつまでも輝き続けることを願いながら、学生たちはドッジボール大会やライブステージ、キャンプファイヤー、花火などのイベントを存分に楽しんだ。

23日の夜には、歌唱や演奏、ビンゴ大会を楽しみながら飲食をする「立食パーティー」が開かれ、大いに盛り上がった。

副実行委員長の水野里々花さん（医学部）は、「準備や調整は大変でしたが、かけがえのない友人や仲間とともに最高の思い出をつくることができました」と笑顔で振り返った。



1 ドッジボール大会 2 夜空を彩る花火
3 立食パーティー 4 キャンプファイヤー

保健医療学部白衣授与式 誓い新たに臨床実習に臨む147名

12月20日、令和6年度保健医療学部白衣授与式を上條記念館で執り行った。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

鈴木久義保健医療学部長は告辞で、「臨床実習での学修の場は患者さんにとっては治療・療養の場です。患者さんやそのご家族を第一に考え、誠実で心優しい行動をしてください。真摯な態度で臨む実習は、教科書からでは決して得られない大変有益で、将来の医療人としての意識や皆さんを形成する貴重な体験・経験の連続となるでしょう。自身の健康に留意しながら、真摯に取り組み、将来『至誠一貫』を体現できるような看護師、理学療法士、作業療法士となることを期待しております」と述べた。

告辞の後、2年生147名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。

久光正学長、小口勝司理事長をはじめ、列席者からの祝辞の後、「先輩からの言葉」として4年生代表の水口颯汰さん（作業療法学科）からメッセージが送られた。水口さんは「臨床実習では体調管理、実習に臨む姿勢、仲間と励まし合うことを意識して取り組んでください。実習を積極的に取り組む学生に、先生方は熱心に指導してくれます。実習の中で徐々に将来像が見えてくると思います。皆さんにとって実習が実り多きものとなるよう願っております」と述べ、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後に代表者による昭和大学宣言を行い、医療人としての誓い

1 先輩からの言葉
2 代表者による昭和大学宣言
3 白衣授与
4 記念撮影（看護学科）
5 記念撮影（理学療法学科・作業療法学科）



を新たにし、閉式となった。

真新しい白衣を身につけた学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において、看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。

実習指導者講習会修了式 患者視点を忘れぬ教育指導を

12月16日、横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和大学保健師助産師看護師実習指導者講習会の合同修了式を執り行った。

本講習会は効果的で質の高い実習指導を行う指導者を養成し、看護基礎教育の質の向上を図ることを目的として開講している。

はじめに、鈴木久義保健医療学部長から67名の受講生一人ひとりに修了証が授与され、閉講の挨拶があった。

続いて、田中晶子保健医療学部看護学科主任の挨拶の後、荒川千春統括看護部長が来賓祝辞として「経験だけでは指導・育成はできません。指導を行う上で相手がどんな目標を持っているのか、成長していくにはどんな指導を行うべきか、相手の成長を願う指導が重要です。この研修を活かして指導者としてさらに成長し、“患者さんの視点で考えられる看護師”を育成していただき

1 挨拶：鈴木久義保健医療学部長
2 謝辞の様子
3 記念撮影



たいと思います」と今後の活躍に期待を寄せた。

最後に、修了生代表が謝辞を述べ、閉式となった。

命に感謝と哀悼の意を捧げる 実験動物慰霊祭

12月20日、池上本門寺本殿（東京都大田区）にて実験動物慰霊祭を執り行った。

本慰霊祭は、本学の教育・研究に資するため尊い命を捧げた動物に対して、感謝と哀悼の意を表する儀式。

当日は、動物実験に関わる各学部の教育職員や学生、約60名が参列し、御霊のご冥福を祈った。



1 読経の様子 2 焼香の様子

医療とその従事者をもっと身近に 品川区内小学生対象に体験授業

11月12日、品川区立第二延山小学校および品川区立清水台小学校の第5学年の児童を対象に医療系職業の体験授業を行った。

午前の部では、様々な医療系職業の体験授業を経験してもらうため、児童を6つのグループに分け、教育研修棟と看護専門学校の2ヶ所で各授業を実施した。教育研修棟では、医学部の「だれにでもおきることがあるよ、アレルギー」、歯学部の「歯の模型を用いた詰め物体験」、薬学部の「やってみよう！服薬支援」を行った。看護専門学校では、看護学科の「乳児のだっこ、肌着の着脱体験」・「聴診器の使用 シミュレーターを用いた体験」、リハビリテーション学科理学療法学専攻の「姿勢チェックと身体機能テストの体験」、リハビリテーション学科作業療法学専攻の「自助具（福祉用具）を使った食事動作の体験」・「手が不自由な方の着替え仕方の体験」を行った。



1 医学部実施の体験授業の様子 2 看護学科実施の体験授業の様子

午後の部では、保健医療学研究科副島賢和准教授が「自分も相手も大切にするかわり」というテーマで特別講演を行った。講演後のアンケートでは「実際に医療現場で働く人たちの思いを知ることができました」「命の大切さがよくわかりました」などの感想が多数寄せられた。

本学は地域社会への貢献を目指し、今後も積極的に近隣の小学校や地域の方々と様々な交流を図っていく。

変形性顎関節症の 分子病態メカニズムを解明した基礎研究が高評価 アメリカ骨代謝学会にてYIA賞受賞

歯学研究科4年の濹坂和大人（歯科矯正学専攻）が、ASBMR 2024 (American Society for Bone and Mineral Research 2024、カナダ・トロント：9月27日～30日）において、演題名「Subcellular spatial transcriptomics and single-cell RNA sequencing analysis reveal the role of the posterior synovium in the temporomandibular joint」が高く評価され、Young Investigator Award (YIA) を受賞した。ASBMR (アメリカ骨代謝学会) は、骨代謝学における世界最大の学会であり、50ヵ国以上から臨床医や研究者など2,500人を超える参加者が集まる。

【濹坂和大人のコメント】

このたびは、栄誉あるASBMRのYoung investigator award を賜り、大変光栄に存じます。本研究は、過度の力学的ストレスや炎症性ストレス、関節円板の位置異常などによって誘発される変形性顎関節症 (TMJ-OA) の病態メカニズムの解明を目的に、ヒトのTMJ-OAの病態を模倣したマウスモデルと最先端のオミックス解析でTMJ-OA分子病態メカニズムを明らかにした基礎研

左から濹坂和大人、
ASBMR President の
Dr. Laura Calvi



究になります。

本研究にあたり、ご指導を賜りました矢野文子講師（歯学部口腔生化学講座）中納治久教授（歯学部歯科矯正学講座）、吉田寛講師（同）、細沼雅弘講師（昭和大学 医学部 薬理学講座）、岡田寛之先生（東京大学大学院医学研究科 疾患生命工学センター 臨床医工学部門）、寺島明日香先生（東京大学医学部附属病院 整形外科 骨・軟骨再生医療講座）、金英寛先生（京都大学医生物学研究所 生命システム研究部門）、鈴木穰先生（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻）本研究に携わっていただいた皆さまに心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みとし、より一層、顎関節研究の発展に努めて参ります。

関連リンク／アメリカ骨代謝学会 <https://www.asbmr.org/annual-meeting>

高校生の将来の夢へ繋がる体験を 全学部合同で体験型授業実施

10月26日、本学の包括連携協定校である世田谷学園の高等部一年生を対象に職業体験講習を実施した。

この取り組みは、高校生に医療の世界を身近に感じてもらい、将来のキャリアを考える機会を提供することを目的としている。

医学部では、最新のシミュレーターを使用し、アナフィラキシーショックへの対応やエピペンの使用法について実践的な学習を行い、生徒たちは実際に医学生が使用する機器に触れ、医療の最前線を体験した。

歯学部では、歯のサンプルを用いて歯の詰め物体験を行い、歯科医療の精密さと技術の重要性を学んだ。

薬学部では、デジタル画像技術を活用し、人体の臓器をスケッチする実習を通じて、薬学における解剖学的知識の重要性を理解した。

保健医療学部では、腕の固定前後での握力の変化を測定し、



1 エピペン体験 2 歯の詰め物体験

手を握る際の筋肉の働きについて学ぶことで、リハビリテーションの重要性と人体の機能について理解を深めた。

各学部での体験型活動を通じて、医療の多様な側面を学んだ生徒たちからは、楽しみながら自分たちの将来のキャリアについて考える貴重な機会となったとの声が寄せられた。

本学は今後も、高大連携活動を通じて、次世代の医療人材の育成に貢献していく。

全国大学保健管理研究集会で 優秀演題賞

田中大介教授（保健管理センター所長）が第62回全国大学保健管理研究集会（10月16日～17日：神戸国際会議場）において、演題名「病院実習において配慮を要した起立性調節障害の学生2名」で、「優秀演題賞」を受賞した。

全国大学保健管理協会は、全国の大学512校の保健管理センター（保健室）が所属し、各大学間の相互連携・協力体制の確保、保健管理に関する調査・研究および研修・啓発を行って実務に還元し、大学における保健管理の充実、公衆衛生の向上ならび

表彰の様子



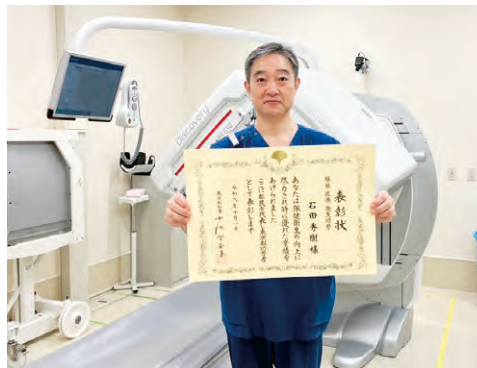
に学術研究の発展への寄与を目的としている。

なお、昭和大学は令和5年7月に久光学長が部会長、田中大介教授が代表世話人となり第61回関東甲信越地方部会を昭和大学上條記念館で開催し、大学間の情報共有と懇親の一翼を担った。

東京都功労者表彰受賞

名 称 東京都功労者表彰（福祉・医療・衛生功労）

受 賞 者 石田秀樹課長（江東豊洲病院 放射線技術部）



石田秀樹課長

日本口腔筋機能療法（MFT）学会学術大会 優秀発表賞

演 題 名 「MFTの定量的評価を目指した舌および歯列・口蓋の機能－形態解析」

受 賞 者 芳賀秀郷准教授（歯学部歯科矯正学講座）

日 程： 2024年10月16日～17日：有楽町朝日ホール
場 所



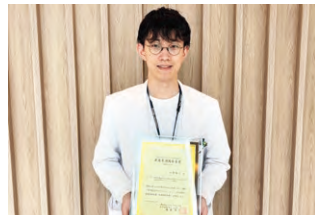
左から芳賀秀郷准教授、常盤肇
大会長（常盤矯正歯科医院 院長）

日本DOHaD学会学術集会 最優秀演題発表賞

演 題 名 「関節炎曝露下の妊娠が誘導する次世代の神経発達障害のメカニズム解明」

受 賞 者 中野僚太助教（薬学部基礎医療薬学講座生理学部門）

日 程： 2024年10月12日～13日：北海道大学 学術交流館
場 所



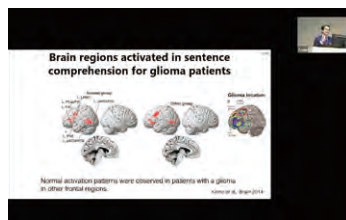
中野僚太助教

Annual Meeting of the Academy of Aphasia 招待講演

演 題 名 「Neural Network of Syntax and Mental Health」

受 賞 者 金野竜太准教授（藤が丘病院脳神経内科）

日 程： 2024年10月18日～20日：奈良市奈良春日野フォーラムIRAKA
場 所



講演の様子

噛み合わせに問題がある子供の治療に向けた研究 日本矯正歯科学会論文賞を受賞

赤塚加奈子助教（歯学部歯科矯正学講座）らが、第83回日本矯正歯科学会学術大会（10月29日～31日：パシフィコ横浜）において、論文名「Investigation of tongue hardness using ultrasound elastography in children during growth period」で、日本矯正歯科学会論文賞を受賞した。日本矯正歯科学会は、歯科矯正学・矯正歯科臨床の進歩・発展を目的として、1926年に設立された日本を代表する歯科矯正学を専門とする学術団体。今年度の学術大会は「矯正歯科治療における形態と機能の調和を目指して」というテーマで開催され、参加者は5,467名だった。

【赤塚加奈子助教のコメント】

この度は、このような栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。また、関係者の皆さまには心より御礼申し上げます。本論文は、超音波診断装置を用いて、学童期不正咬合患者の舌弾性を評価したことになります。医科や理学療法領域においては、古くから超音波診断装置を用いて骨格筋の評価がされてきましたが、歯科領域での筋の機能評価への応用は新規性が高く、また独創的な研究テーマだと考えております。現在も本研究テーマを継続して



左から芳賀秀郷准教授（歯学部歯科矯正学講座）、赤塚加奈子助教、中納治久教授（同）

おり、様々な課題を解決した上で、歯科臨床への実装を目指しております。引き続き研究に精進し、大学の研究促進と社会への貢献に尽力する所存です。改めて、日頃よりご指導、ご助力をいただいている昭和大学統括研究推進センター（SURAC）の皆さま、関係者の皆さまおよび講座の先生方に心より御礼申し上げます。

論文名／Investigation of tongue hardness using ultrasound elastography in children during growth period

掲載誌／*Clinical and Investigative Orthodontics* (VOL. 82, ISS. 2, 98-107, 2023)

著者／Kanako Akatsuka, Shugo Haga, Ryo Nagahama, Koutaro Maki,

DOI／10.1080/27705781.2023.2199473

日本頭蓋顎顔面外科学会 最優秀賞論文賞

演題名「Analysis of the relationship between mandibular condylar morphology and masticatory muscles」

受賞者 深川真希助教（歯学部歯科矯正学講座）

日程：2024年11月14日～15日：御茶ノ水ソラシティカン
場所 ファレンスセンター



左から長濱諒講師、深川真希助教、横宏太郎特任教授

日本毒性学会付加体科学部会シンポジウム 若手優秀研究賞

演題名「長鎖アシルCoA合成酵素ACSL4による脂肪酸付加体形成を介した肺線維化作用の解析」

受賞者 富塚祐希助教（薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門）

日程：2024年10月25日～10月26日：国立研究開発法人
場所 理化学研究所 和光キャンパス



富塚祐希助教、原俊太郎教授（薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門）

Database

令和6年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和6年度の科学研究費助成事業の交付は全体で338件が採択され、総計で3億9,818万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■医学部：136件 1億7,535万円 ■歯学部：84件 1億470万円 ■薬学部：45件 4,583万円
■保健医療学部：36件 3,180万円 ■富士吉田教育部：4件 760万円 ■研究所等：33件 3,290万円

今号では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所・法人の一覧、そして6月以降採択分を掲載する。

※所属・役職は令和6年5月交付時点

保健医療学部

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
教育学		教授	榎田 めぐみ	2,500,000	多職種と協働できる能力を育むための段階的な教育プログラムの構築と評価方法の確立
		特任教授	岩波 明	800,000	アイトラッカーを用いた成人期発達障害の共同注意に関する研究
		准教授	加茂野 有徳	3,000,000	脳卒中片麻痺者に対する長下肢装具を用いた立位・歩行リハによる身体的・心理的效果
		講師	大久保 茂子	1,600,000	歯科技工士における粉塵および金属曝露の実態調査 一環境と個人曝露測定を中心として一
		講師	武井 良子	1,900,000	連続発話における構音動態の解明と新たな構音訓練法への展望
		教授	三村 洋美	1,100,000	高齢者のSDMと生きる証の記録を連動させたEOLケアの実装研究
		教授	田中 晶子	400,000	急性期意識障害患者の意識回復に効果のある快適刺激基準の開発
		教授	渡邊 知映	600,000	若年女性がん患者の性・生殖に関するICTを活用した支援プログラムの開発
		教授	鈴木 浩子	500,000	デジタルコンテンツを用いた育児中の母親のメンタルヘルスケア支援プログラムの開発
		教授（員外）	安部 聡子	700,000	アイフレイルに対する簡易ビジョントレーニングの戦略的導入効果
看護学		准教授	川村 晴美	800,000	急性期病院で認知症高齢者をケアする看護師への認知症ケアサポートプログラムの開発
		准教授	村田 加奈子	1,400,000	退院前から退院直後の移行期を支える効果的な訪問看護モデルの構築
		准教授	大木 友美	100,000	遠隔集中治療における患者回復アウトカムへつながら看護ケアモデルの構築
		准教授	和智 志げみ	400,000	熟達助産師のケア技術の伝承に向けた研究 一産後2週間健診のケアモデル検討一
		講師	井出 由美	400,000	NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの普及と実用化研究
		講師	柴田 由美	400,000	口腔機能障害患者のフレイル、介護予防に関する研究 一新たな早期支援策の開発一
		講師	中澤 沙織	700,000	新卒看護師の職務定着に向けた職務満足とバーンアウトの因果モデルの開発
		講師	本間 織重	1,900,000	感染症パンデミックに耐えうるがん看護システム構築のための有害事象評価シートの開発
		准教授	上條 史子	100,000	片麻痺者の体幹機能評価の策定－日常生活動作向上に向けて－
		准教授	増山 英理子	200,000	脳損傷者における視知覚と自律神経機能評価による情動反応の可視化
リハビリテーション学		准教授	池田 崇	400,000	心臓リハ患者に対するβヒドロキシβメチル酪酸カルシウムを併用した運動療法の効果
		講師	大塚 裕之	600,000	片麻痺患者の四肢共同運動の解明とニューロリハビリテーションの開発
		講師	来住野 麻美	700,000	パレエにおける下肢関節痛の発症メカニズム解明にむけた関節接触圧モデル作成
		講師	高木 領	1,600,000	炎症による細胞機能低下に対するTRPM8活性化冷却刺激の影響
		准教授	中山 香映	1,100,000	母子健康手帳アプリ防災メニューを活用した公民連携防災教育プログラムの有効性の検討
		准教授	田代 尚範	700,000	人工呼吸器離脱の意思決定における横隔膜機能評価の臨床的有効性に関する研究
		准教授	松井 真弓	1,700,000	出産後の女性における腰痛及び骨盤帯痛予防のための教育プログラムの構築
		准教授	長井 雅代	600,000	温電法が慢性炎症と動脈硬化度に与える影響

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
若手研究	看護学	講師	犬塚 真由子	1,000,000	対側リスク低減乳房切除術を受けた遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性のQOL調査
		講師	市村 菜奈	100,000	音楽に合わせた手指運動が脳血流や入院患者の認知機能へ与える影響の解明
		講師	平塚 克洋	300,000	小児医療に留まる思春期・青年期慢性疾患患者の成人移行のための看護ケア指針の考案
		講師	鈴木 洋子	800,000	COVID-19後のリアリティショックー卒後2年目までの看護師に着目ー
	リハビリテーション学	准教授	的場 匡亮	200,000	医療機関と患者との価値共創に関する研究
		講師	根本 慎司	500,000	心不全患者の下肢筋酸素利用能の改善に最適な骨格筋トレーニング方法の確立
		講師	青木 啓一郎	900,000	ミラーセラピーと電気刺激の併用療法による脳卒中上肢リハの新規ストラテジーの開発
		講師	井上 拓保	1,100,000	嚥下超音波検査による咽頭残留評価の臨床活用に向けた有用性の検証

富士吉田教育部

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
基盤研究（B）	富士吉田教育部	教授（員外）	宮本 洋一	4,500,000	関節の恒常性維持と破綻における超硫黄分子の機能解明に基づく関節疾患治療の基盤構築
基盤研究（C）	富士吉田教育部	教授	山本 雅人	300,000	赤外光による緑膿菌とアシネトバクター・パウマニの周辺空気からの非接触検出
		教授	小倉 浩	2,100,000	多次元Hawkes過程およびHawkes Mapを用いた文書情報の可視化に関する研究
		准教授	花田 康高	700,000	トンネル効果のfloodingに伴う量子エルゴード性の獲得について

研究所・法人

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
学術変革領域研究（A）	臨床薬理研究所／臨床免疫腫瘍学	准教授	秋山 雅博	1,900,000	腸内細菌の環境ストレス制御における超硫黄分子の役割
基盤研究（B）	臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学	講師	清水 峻志	3,700,000	ICI耐性NSCLCにおけるSiglec-9の役割
	臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学	講師	家口 勝昭	1,100,000	EphA2/ephrin-A1を介したPD-L1発現調節機構の解明と臨床応用への模索
	臨床薬理研究所／臨床免疫腫瘍学	教授（員外）	倉増 敦朗	1,200,000	免疫チェックポイント阻害薬の抗腫瘍作用に対する抗ヒスタミン薬の増強効果
		准教授	秋山 雅博	1,000,000	硫黄修飾を介した腸内細菌の代謝機能制御
	先端がん治療研究所	教授（員外）	鶴谷 純司	700,000	難治性腫瘍形成における葉酸受容体発現の機序と役割解明
		准教授	伊藤 寛晃	300,000	ラマン分光法を応用した食道・胃・大腸がん包括的診療システムの確立
		准教授	今村 知世	500,000	腫瘍に発現する抗原／受容体を標的とする抗体製剤のPK規定因子の探索
		助教	長谷部 友紀	1,500,000	非小細胞性肺癌における末梢血循環癌細胞（CTC）新規同定法の開発
発達障害医療研究所	准教授	太田 晴久	1,100,000	ADHDに伴う感覚過敏の脳神経基盤の解明と治療可能性の検討	
	講師	板橋 貴史	1,700,000	中脳ドーパミン作動システムに着目した自閉スペクトラム症の脳神経回路の検討	
基盤研究（C）	富士山麓自然・生物研究所	講師	柿嶋 聡	1,200,000	送粉者誘引メカニズムの進化の視点から探るマムシグサ節の種の実体解明
	ストレスマネジメント研究所	教授	中尾 睦宏	1,100,000	職域における適応障害（適応反応症）の病態解明と心理療法プログラムの開発
	メディカルデザイン研究所	講師	源川 奈央子	600,000	ケニア共和国における生活習慣改善支援プログラムの構築
	臨床疫学研究所	教授	長谷川 毅	600,000	情報通信技術を活用した診療ガイドライン策定・改訂に資する人材育成プログラムの構築
	医学英語教育センター	講師	大野 真機	1,500,000	学習英文法と科学文法をつなぐ一歩進んだ英文法の研究
	国際交流センター	准教授	マイヤース マイケル	200,000	Study abroad and improved physician empathy in medical students
		教授	三邊 武彦	400,000	とろみ調整食品はTDMが必要な医薬品の薬物動態に影響を及ぼすか？
	統括研究推進センター	教授（員外）	井上 永介	900,000	腸内細菌叢による免疫チェックポイント阻害薬の効果予測モデルの開発とパッケージ構築
認定看護師教育センター	講師	山口 紀子	1,200,000	医行為と看護のつながりを目指したB課程認定看護師教育課程での教育モデルの構築	

研究種目	所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
基盤研究（C）	昭和大学横浜市北部病院／消化器センター	特任教授	工藤 進英	1,700,000	陥凹型早期癌のオルガノイドを用いた大腸癌浸潤・転移の再現と機序解明
臨床薬理研究所	臨床薬理研究所	講師	山本 明和	200,000	3次元OCT画像を基軸としたAIによる急性心筋梗塞病因診断の確立
		兼任講師	木村 篤史	1,100,000	チアミンによるアルツハイマー病の予防・進行抑制機序の多面的解明：基礎から臨床へ
	先端がん治療研究所	講師	酒井 瞳	200,000	HER2陰性乳癌脳転移・髄膜播種の薬物療法開発にむけた髄液ctDNA検査の研究
		助教	直江 大河	700,000	談話における言語表現が自閉スペクトラム症者の感情に与える影響とその神経基盤の解明
若手研究	発達障害医療研究所	兼任講師	山田 貴志	（※1） 0	自閉スペクトラム症の学習過程の解明：視知覚学習による検討
		兼任講師	青木 悠太	900,000	発達障害の超診断的・生物学的サブタイピング
	富士山麓自然・生物研究所	講師	藤原 泰央	900,000	オミクス解析で紐解くシダ植物のポスト倍数体進化の様式
	臨床疫学研究所	講師	山路 野百合	1,600,000	がんの子どもと家族を中心としたコミュニケーションの探求とその普及に関する研究
	医学英語教育センター	講師	大澤 恵里	500,000	残響下の時間長知覚に対する残響曝露の効果
	統括研究推進センター	講師	塚田 愛	500,000	ワイン残渣由来ポリフェノールの経口摂取による体内動態と美白作用のメカニズム
	発達障害医療研究所	助教	直江 大河	1,100,000	成人自閉スペクトラム症者の語用論的特徴の多様性とその神経基盤の解明
	臨床疫学研究所	講師	山路 野百合	1,100,000	がんの子どもと家族との医療従事者向けコミュニケーション教育プログラムの開発と評価

※1：研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し

6月以降採択者

研究種目	学部／所属／部門	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
挑戦的研究（萌芽）	■ 研究所・法人／臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学	教授	和田 聡	2,100,000	ドライバー遺伝子変異に伴うPD-L1糖鎖構造の解明及び個別化治療への挑戦
研究活動スタート支援	■ 歯学部／口腔病態診断科学／口腔病理学部門	助教	大沼 慎太郎	1,100,000	唾液腺オルガノイドの生着を促進する組織特異的スキャフォールドの開発
	■ 歯学部／歯科補綴学／歯科補綴学部門	助教（歯科）	前嶋 康平	700,000	睡眠時ブラキシズムに対する振動刺激を用いた応答性に関連する患者特性の同定
	■ 歯学部／歯科保存学／歯内治療学部門	助教（歯科）	大竹 開	700,000	骨欠損修復促進因子の同定とその機能解明
	■ 薬学部／基礎薬学／腫瘍細胞生物学部門	助教	中川 英嗣	1,100,000	癌転移阻止を目指したTAZによるanoikis抵抗性制御機構の解明
	■ 薬学部／生体分析化学	普通研究生	丸山 真一	1,100,000	経口分子標的薬の血中濃度測定法の確立と個別化治療の実現
	■ 保健医療学部／リハビリテーション学科	講師	大橋 夏美	1,800,000	深部静脈血栓症予防のための理学療法手技による下肢静脈還流量の変化
		講師	浜辺 峻弥	1,500,000	急性期脳卒中患者の身体機能・活動状況の推移が最終転帰先におよぼす影響の検討
		講師	鈴木 哲理	1,000,000	大規模言語モデルを使用した作業の結びつきの問題を判別する人工知能モデルの開発
研究活動スタート支援	■ 保健医療学部／医系基礎・専門・教育分野	普通研究生	龍 由季乃	300,000	患者に行う排泄介助が看護師に与える癒しの要因の検証

※所属・職名は、令和6年7月1日付人事情報



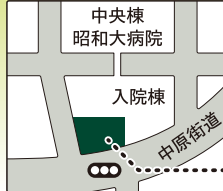
日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、全国 47 都道府県で 700 以上の調剤薬局を展開している企業です。

お気軽にご相談を!!

- ◆ 万が一のための保障準備
- ◆ 住宅ローン・資産運用 など



中央棟
昭和大病院
入院棟
中原街道

お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012



総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

令和7年度総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験を旗の台キャンパスで実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

総合型選抜入試結果

学部	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
歯学部	1次：書類審査 2次：10月6日	8	59	9
薬学部		20	58	20
看護学科		15	88	15
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	10月6日	8	28	12
リハビリテーション学科 作業療法学専攻		9	6	6

2025年度医学部附属看護専門学校入学試験（推薦・学士選抜）結果

医学部附属看護専門学校2025年度学校推薦型選抜入学試験（指定校・公募）、学士・短期大学士選抜入学試験を11月3日、同校で実施した。当日は学力試験と面接試験を行い、11月6日に合格者計77名が発表された。一般選抜入学試験は1月13日に実施、15日に合格発表を行った。詳細は次号（4月号）に掲載。

	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部附属 看護専門学校	推薦	11月3日	約70名	75名	57名
	学士		約15名	22名	20名



学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

学部	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部	学校推薦型 ^{※1}		2	2	2
	卒業生推薦		7	55	7
歯学部	学校推薦型 ^{※2}		29	55	28
	卒業生推薦		7	12	8
	編入学		若干名	19	9
薬学部	学校推薦型 ^{※2}		46	58	37
	卒業生推薦		10	9	6
看護学科	学校推薦型 ^{※2}	11月17日	43	90	43
	卒業生推薦		3	4	3
	編入学		10	6	5
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻		11	19	13
	卒業生推薦		1	0	0
保健医療学部	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	学校推薦型 ^{※2}	9	3	3
	卒業生推薦		1	0	0

※1 特別協定校のみ ※2 公募・指定校・特別協定校を含む

大学院保健医療学研究科令和7年度春季入学試験結果

研究科		試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
保健医療学 研究科	博士前期課程	春季	11月9日	20名	18名	15名
	博士後期課程	春季		6名	6名	5名
合計				26名	24名	19名



令和6年度永年勤続者表彰
今年度の表彰者は勤続35年28名、勤続25年42名、勤続15年128名。

本学で永きにわたり職務に精励し、本学の発展に貢献した職員を表彰する永年勤続者表彰により198名の職員が表彰された。

【令和6年度 永年勤続表彰者】

35年表彰者（28名）		※敬称略
星野 祐美	医学部 衛生学公衆衛生学	
松木 恵里	保健医療学部 看護学科	
飯田 誠	総務部	
山崎 佳哉	総務部総合情報管理課	
黒田 善明	施設部施設課監視室	
北野 和義	施設部施設課監視室	
玉川 百里	医学部附属看護専門学校 教員室	
吉田 雅子	昭和大学病院 看護部	
石原 実千代	昭和大学病院 看護部	
黒澤 美枝	昭和大学病院 看護部	
武 俊夫	昭和大学病院 放射線技術部	
川邊 竜二	昭和大学病院 放射線技術部	
岡崎 美幸	昭和大学病院 臨床検査室臨床検査部門生理検査室	
今井 康人	昭和大学病院附属東病院 放射線技術室	
神崎 浩二	昭和大学藤が丘病院 整形外科	
屋宜 幸雄	昭和大学藤が丘病院 管理課 防災センター	
岡部 圭吾	昭和大学藤が丘病院 放射線技術部	
宮腰 淳子	昭和大学藤が丘病院 看護部	
野村 陽子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 看護部	
久保寺 千尋	昭和大学横浜市北部病院 管理課	
鈴木 令子	昭和大学横浜市北部病院 医事外来課	
渡邊 由紀恵	昭和大学横浜市北部病院 医事入院課	
倭 秀忠	昭和大学横浜市北部病院 放射線技術部	
川島 真美	昭和大学江東豊洲病院 看護部	
小林 宏栄	昭和大学江東豊洲病院 看護部	
鈴木 朗	昭和大学江東豊洲病院 臨床検査室臨床検査部門 輸血検査室	
中川 尚子	昭和大学附属烏山病院 看護部	
半田 正彦	昭和大学歯科病院 歯科技工室	

25年表彰者（42名）		※敬称略
森崎 弘史	歯学部 口腔微生物学	
和田 紀子	薬学部 病院薬理学	
白戸 信行	保健医療学部 看護学科	
下 恵子	保健医療学部 看護学科	
山本 雅人	富士吉田教育部	
萩原 康夫	富士吉田教育部	

吉岡 由貴	総務部総務課
黒澤 あかね	財務部法人経理課
高木 満	統括研究推進センター事務室 臨床研究支援課
茨木 朝子	図書館
築瀬 真由美	医学部附属看護専門学校 教員室
田邊 聡	昭和大学病院 医事入院課
深澤 早苗	昭和大学病院 看護部
今村 ゆり子	昭和大学病院 看護部
大嶋 希美子	昭和大学病院 看護部
牧 克仁	昭和大学病院 看護部
飯田 美香	昭和大学病院附属東病院 管理課
北野 智良	昭和大学病院附属東病院 管理課
小林 洋子	昭和大学病院附属東病院 看護部
時田 晴子	昭和大学病院附属東病院 看護部
大川 宏	昭和大学藤が丘病院 クオリティマネジメント課
山本 玲美	昭和大学藤が丘病院 クオリティマネジメント課
國兼 真知子	昭和大学藤が丘病院 看護部
笹本 和絵	昭和大学藤が丘病院 看護部
川嶋 明子	昭和大学藤が丘病院 看護部
松岡 恵美	昭和大学藤が丘病院 看護部
石下 宏征	昭和大学藤が丘病院 薬剤部
岩城 馨	昭和大学藤が丘病院 看護部
木村 里美	昭和大学藤が丘病院 看護部
加藤 聡子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 管理課
成田 博子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 看護部
木村 智子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 看護部
齊藤 哲也	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部
藤澤 邦見	昭和大学横浜市北部病院 眼科
横山 登	昭和大学江東豊洲病院 消化器外科
笈沼 智子	昭和大学江東豊洲病院 看護部
久保田 紀子	昭和大学江東豊洲病院 看護部
山本 智香	昭和大学江東豊洲病院 看護部
小林 菜穂	昭和大学江東豊洲病院 看護部
木村 努	昭和大学江東豊洲病院 リハビリテーション技術部
池ヶ谷 訓章	昭和大学附属烏山病院 看護部
加藤 久美子	昭和大学歯科病院 歯科放射線科

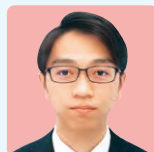
「実習を通して学んだ 昭和大学マインド」

10月、約3週間にわたり、学部混合のグループ学習「初年次体験実習」が行われた。施設実習や病院実習など他学部生とのグループワークを通して、早期からチーム医療マインドと幅広い視野を養うことを目的としたカリキュラムとなっている。「初年次体験実習」を終えた学生たちに振り返りや今後の展望を聞いた。

不自由体験実習

不自由さから学んだ 思いやり

保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
花島朋樹



不自由体験実習では、視界を狭くするゴーグルや重りなどを装着して、杖歩行や車いす体験、薬袋の開封といった軽作業を行い、自分の体がいかに動かない状況と介助の方法を実際に体験しました。実際に体験することで、介助者の想像以上に体験者は視界が利かなくなることがわかり、視界と体の動きが制限された中での杖歩行や、車いすでの段差の乗り降りに恐怖を感じました。

これらの経験は、今後の実習等で高齢者や障がいを持つ方と接する際に、相手の心情や感覚を思いやり、適切な支援を行えるようになるための貴重な学びとなりました。

昭和大学藤が丘病院の実習では、薬剤部、内視鏡、救命救急センター、臨床工学室、臨床検査室を見学しました。薬剤部では薬学の観点から患者さんを診て、医師や看護師と情報を共有することも業務の一つであることを学びました。救命救急センターでは重篤患者に対する迅速な対応が求められるところであり、先を読むための知識や、臨床症状から疾患を考えるための幅広い知識が必要であることを学びました。チーム医療の現場を間近で見ることで、今私たちが行っている学部連携の意義を再確認するとともに、薬学以外の知識も学ぶ必要があると気づきました。これらの学びと気づきを活かして今後の勉学に励みたいと思います。

施設実習

新たな見方を学んだ 施設実習

医学部
飯綱音羽



私は富士吉田キャンパス周辺にある支援学校で施設実習を行わせていただき、障がいを持つ小学生とともに一日の学校生活を過ごしました。ここでは、非言語コミュニケーションの大切さを学び、身振りや表情をよく観察し、積極的に児童と触れ合う様子を見ることができました。また、障がいを持っているからといって過干渉せず、各々のペースを大切に自力でできることはさせ、将来の自立や就業への橋渡しを意識していました。今回の実習で、障がいを持つ方は配慮が必要な部分もあるけれど、本質的には健常な人と変わらず、障がいも個性と捉えて接することができるということを強く感じました。

病院実習

病院実習で得た 学びと気づき



薬学部
飯田侑衣

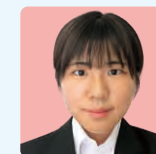


救急法実習で、意識がある傷病者に対する反応の観察・応急手当の方法を学びました。三角巾が包帯として様々な使い方ができたり、毛布が担架として利用されたりなど身近なものが人を救う道具に変わることに驚きました。また、二次災害を防ぎ、救助者である自分自身の命を守ることの大切さも学ぶことができました。そして何より、例え一人だとしても、救急車が来るまでの間に自分にできることはたくさんあるということに気づくことができた実習だったと思います。

医療職だからということに関係なく、こういった緊急時に躊躇せず誰かを助ける人になりたいと強く感じました。

救急法実習

命を救急隊に 引き継ぐために



保健医療学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻
大滝歩実

心肺蘇生法実習

心肺蘇生法を経て

保健医療学部
看護学科
千葉玄徳



心肺蘇生法実習では、胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸、AEDの使用法といった救命処置の一連の流れ、気道異物の除去の二つを訓練用の人形を使って学びました。救命処置では、胸骨圧迫の位置・深さ・速さ・十分な圧迫の解除ができているかの四つのポイントがあり、人形を使いそれらをデータ化することによって今の自分の技量を測ることができます。

今回の実習では教科書を読むだけでなく、実際に体験することによって人命救助の難しさを感じることができました。人命救助にはより正確な行動が要求されるため、それを学べたことは医療人を目指すものとして大きな糧となりました。

学部別実習

歯科病院見学から得た 今後の目標



歯学部
熊谷真央

私は、学部別実習で昭和大学歯科病院の小児歯科・歯周病科・歯科麻酔科を見学しました。診療の様子や器具、手術現場といった貴重な現場を拝見し、各診療科の役割はもちろん、一般歯科医院と大学病院の役割の違いについても学ぶことができました。今回の実習を通して、医療従事者への尊敬の気持ちと、苦しんでいる人々を歯科医療を通して助けることへの憧れが大きくなりました。先生方のように患者さんに寄り添うことができる医師を目指します。また、さらに知りたいことや身につけたいことが増えたため、それらが達成できるよう、今後の学修に励んでいきたいと思っています。



就任のお知らせ（10月8日 理事会承認）

特任教授



木内 祐二

医学部医科薬理学講座担当 教授
〔勤務地：昭和大学旗の台校舎〕
理由：看護専門学校長のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



中村 明弘

薬学部薬剤学講座担当 教授
〔勤務地：昭和大学旗の台校舎〕
理由：鷺沼キャンパス責任者のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



角田 卓也

医学部内科学講座腫瘍内科学部門担当 教授
〔勤務地：昭和大学病院腫瘍内科〕
理由：昭和大学病院腫瘍内科診療のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



水谷 徹

医学部脳神経外科学講座担当 教授
〔勤務地：昭和大学病院脳神経外科〕
理由：昭和大学江東豊洲病院脳神経外科診療のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



小谷 透

医学部集中治療医学講座担当 教授
〔勤務地：昭和大学病院集中治療科〕
理由：昭和大学病院集中治療科診療のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



林 宗貴

医学部救急・災害医学講座担当 教授
〔勤務地：昭和大学藤が丘病院救命救急科〕
理由：昭和大学江東豊洲病院救命救急科診療のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授



安次富 隆

昭和大学メディカルデザイン研究所 教授
〔勤務地：昭和大学長津田校舎〕
理由：昭和大学メディカルデザイン研究所長のため
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授 継続 任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

小林 真一	小林 洋一	佐野 俊二	加賀美 芳和	
岡本 健一郎	大久保 文雄	寺田 友昭	楯 玄秀	村上 雅彦
福成 信博	嘉村 康邦	桑迫 勇登	山上 裕機	小林 一女
橋本 東児	荒木 和之	伊藤 純治	田中 周一	相良 博典
落合 正彦	坂下 暁子	岩波 明	永田 茂樹	（以上、23名）

藤が丘病院再整備準備室 室長



鈴木 洋

昭和大学藤が丘病院 副院長
任命日：令和6年10月8日

医学部放射線医学講座（放射線科学部門）担当 教授

〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院内科系診療センター（放射線診断科）〕



清野 哲孝

医学部放射線医学講座（放射線科学部門）担当 准教授
〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院内科系診療センター（放射線診断科）〕
任命日：令和6年11月1日

医学部外科学講座（消化器一般外科学部門）担当 教授（員外）

〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院消化器センター（消化器外科）〕



出口 義雄

医学部外科学講座（消化器一般外科学部門）担当 准教授
〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院消化器センター（消化器外科）〕
任命日：令和6年11月1日

医学部泌尿器科学講座担当 教授（員外）

〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター（泌尿器科）〕



森田 將

医学部泌尿器科学講座担当 准教授
〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター（泌尿器科）〕
任命日：令和6年11月1日

医学部小児科学講座（小児内科学部門）担当 教授（員外）

〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院こどもセンター（小児内科）〕



阿部 祥英

医学部小児科学講座（小児内科学部門）担当 准教授
〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院こどもセンター（小児内科）〕
任命日：令和6年11月1日

昭和大学脳機能解析・デジタル医学研究所 教授



佐藤 洋輔

昭和大学脳機能解析・デジタル医学研究所 准教授
任命日：令和6年11月1日

理事会関係

◆令和6年度活性化推進委員会実行計画について

各プロジェクトからの答申に基づき、法人・大学活性化推進委員会、病院活性化推進委員会が策定した実行計画が承認された。

【法人・大学活性化推進プロジェクト】

- ①臨床研修医教育の問題点抽出と解決策検討プロジェクト
- ②大学内の研究センター化検討プロジェクト
- ③創立100周年記念事業 基本計画検討プロジェクト

【病院活性化推進プロジェクト】

- ①4病院地域連携におけるDoctor to Doctor制度の推進検討プロジェクト
- ②4病院における2次救急のあり方検討プロジェクト
- ③看護師の育成・配置促進のあり方検討プロジェクト

◆法人組織図変更について

【変更内容】教育・研究系組織に昭和大学シミュレーションセンターを追加する。

【変更日】令和6年11月1日

◆薬学部基礎医療薬学講座薬剤学部門名称変更について

変更前	変更後
薬学部基礎医療薬学講座 薬剤学部門	薬学部基礎医療薬学講座 製剤設計学部門
Department of Pharmacology, Toxicology and Therapeutics, Division of Pharmaceutic	Department of Pharmacology, Toxicology and Therapeutics, Division of Formulation Design in Drug Delivery

【変更日】令和7年4月1日

◆本学教育職員を目指す薬学研究科大学院生への 大学院奨学金給付について

【要件】昭和大学大学院薬学研究科に入学し、臨床薬剤師研修終了後の3年次に助教（病院直属）となって休職し、大学院修了後に復職して4年以上本学薬学部病院薬剤学講座の専任教育職員として教育・研究・臨床に従事する者
※令和7年度以降に昭和大学大学院薬学研究科へ入学する学生を対象とする。

◆学位取得を目指す薬剤師への特別研究生研究費免除について

【要件】以下の要件をすべて満たす特別研究生については、薬学研究科教授会の審議を経て研究費を免除することができる。

- ①臨床薬剤師研修終了後8年以内の本学技術職員（薬剤師）で、乙号で博士（薬学）の学位取得を目指す者
- ②病院薬剤学分野以外の研究分野を専攻する者
- ③博士の学位取得後、本学において引き続き4年以上薬学部病院薬剤学講座の専任教育職員として教育・研究・臨床に従事する者
※令和7年度以降に特別研究生となる者を対象とする

◆公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団への寄附について

公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団に対して寄附を行うこととなった。

【寄附金額】5,000,000円

【振込時期】令和6年11月

◆特許権に係る実施補償金支給の件について

【対象 発明名称】抗ウイルス活性を有するヌクレオチド誘導体の開発

【実施料収入】4,496,042円

【実施補償金（分配割合）】大 学 2,697,626円（60%）、
発明者 1,798,416円（40%）

◆臨床薬剤師研修終了後のキャリアについて

【変更理由】優秀な薬学部教育職員を確保するため、助教（病院直属）の定員を設け、助教（薬科）の定員を技術職員（薬剤師）および助教（薬科）の職種に振り分けるため。

・助教（病院直属）：臨床薬剤師研修終了後、大学院にて甲号学位取得を目指す者

・技術職員（薬剤師）：臨床薬剤師研修終了後、本学附属病院に薬剤師として勤務し、乙号学位取得を目指す者

※契約職員とし、契約更新の通算年限は8年を上限とする。

・助教（薬科）：臨床薬剤師研修終了後、本学附属病院薬剤師・薬局にて勤務する者

【運用開始日】令和7年4月1日

◆富士吉田キャンパス新実習棟における設計概要について

富士吉田キャンパス新実習棟について、令和8年4月の使用開始にむけて、予定どおり令和6年11月から工事を開始することとなった。

【土地詳細】延床面積：2633.27m² 建物規模：地上3階

1階：形態機能実習室 2階：多目的実習室

3階：理工学実習室、基礎看護実習室

【今後のスケジュール（予定）】建設工事：令和6年11月～令和8年1月（工期：14か月）

【使用開始】令和8年4月

◆大学院薬学研究科薬剤学分野名称変更の件

変更前	変更後
薬学研究科薬剤学分野	薬学研究科製剤設計学分野
Department of Pharmaceutics	Department of Pharmaceutical Formulation Design

【変更日】令和7年4月1日

◆令和6年度後期大学研究費の支給について

【支給合計額】269,420,000円

【支給日】令和6年11月29日

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務室

リカレントカレッジ
2025年度春期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、2025年度春期プログラムの受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は4月に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。

【4月開講】申込締切：2025年3月20日(休)

プログラム名	講師(敬称略)
医療と死生観 ～人生の意味・役割を問う～	高宮 有介
映画に見る「ディストピア」～アメリカ人はどうして自分たちの国が亡びる姿を見たがるのか?～	内田 樹
人生100年時代を乗り切る賢い生活の知恵	山岸 昌一
ハリウッド式! 大人から始める初めてのボイストレーニング～楽しく歌って心も体も元気になるう!～	金丸 明日香
60代になったら始めよう! 人生が豊かになる! 姿勢・歩き方講座	岡山 知世
我が国の医療と健康 その1 ～医師国家試験問題から紐解く～	小風 暁
はじめての薬膳茶レッスン♪ 美味しく、簡単に、綺麗になろう ～和洋中の薬膳ハーブを味わい・楽しもう～	大塚 まひさ
歴史に隠れた病気を探る	小川 良雄
アンチエイジングのための山歩(さんぽ) ～新緑と富士登山準備～	原口 省吾
宇宙教育のすすめ ～身近にある宇宙・天文技術の共有～	和田 直樹
からだの仕組みと薬の秘密を知る! 賢いOTC医薬品の選び方・使い方 ～総合かぜ薬編～	赤川 圭子
健康を維持するための筋トレ・栄養学 ～人生100年を有意義に過ごすためのWell beingを考える～	蜂須 貢
刻書を知る	新井 平八郎
ワインの基礎を学んでみませんか? ～ワイン初級講座～	鈴木 満
コミュニケーションスキルを身に付けよう	後藤 理英子
ハリウッド式! 歌うように話せる! ボイストレーニング～声帯の筋トレで人を魅了する声を手に入れよう!～	金丸 明日香
人生がハッピーになる 大人のためのオシッコ学	小川 良雄

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務室
電話：03-3784-8143



昭和大学学士会

第71回昭和大学学士会総会

11月30日、旗の台キャンパス4号館にて第71回昭和大学学士会総会を開催しました。

まず、一般演題・学位論文内容発表の42演題を6会場にて行いました。

続いて600号教室にて【年次報告】、そして【昭和大学学士会学術奨励賞】の授与が行われました。この賞には、2023年発行の学会誌に掲載された原著論文で、投稿時に筆頭著者40歳未満の中から6論文の著者が選ばれ、表彰されました。

また、【教育講演】では、医学部の青木淳教授に「心臓血管外科領域における低侵襲治療の導入」、薬学部の田中克巳教授に「臨床薬剤師育成システムの確立に向けて」、富士吉田教育部の小倉浩教授に「初年次における要支援学生の早期把握に向けて」をご講演いただきました。

会場とライブ配信を併用したハイブリット開催に、600号教室には105名、ライブ配信にて45名と多くの方々にご参加いただきました。



1 昭和大学学士会学術奨励賞の受賞者と小風副会長 2 教育講演1 青木淳教授 3 教育講演2 田中克巳教授 4 教育講演3 小倉浩教授

また、【年次報告】において学会誌の新誌名が報告されました。2025年4月1日の校名変更より先駆けて、1号から新誌名にて発行することになります。「巻」は従来からの継続となります。和文誌は第85巻1号(2025年2月号)から、英文誌はVol.37-No.1(2025年3月号)から新誌名となります。

	旧誌名	新誌名
和文誌	昭和学士会雑誌	昭和医科大学雑誌
英文誌	The Showa University Journal of Medical Sciences	The Showa Medical University Journal
発行元	昭和大学学士会	昭和医科大学学士会

2024年度 昭和大学学士会学術奨励賞 受賞者(敬称略)

Effect of mastication on adult hippocampal neurogenesis in mice

宮野 二美加
昭和大学歯学部歯科矯正学講座

Secondary bladder cancer after permanent iodine-125 brachytherapy for prostate cancer

平山 貴大
昭和大学大学院医学研究科泌尿器科学分野

Characteristics of burst-generating networks released by disinhibition in the spinal cord of neonatal rats

高橋 秀
昭和大学医学部生理学講座生体調節機能学部門

Dual Energy CT for determining the severity of acute pancreatitis

濱田 裕貴
昭和大学病院診療放射線技術部

急性冠症候群において第二世代の薬剤溶出性ステントを留置後の血小板機能と晩期内腔損失との関連

井川 渉
昭和大学横浜市北部病院循環器内科

Application of optical dental impression data for personal identification

磨田 友里子
昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

※所属・氏名は論文掲載時のもの。

引き続きよろしくお願い申し上げます。ご投稿の際は、学士会WEBサイト〈学会誌〉コンテンツをご覧ください。

お問い合わせ 昭和大学学士会

電話：03-3784-8074

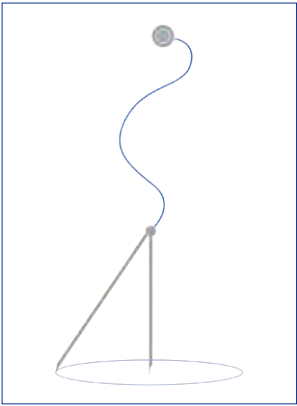
メール：gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp



上條記念ミュージアム

メディカルデザイン展 開催!

第6回企画展「メディカルデザイン展 ―昭和大学メディカルデザイン研究所の試み―」が、昭和大学メディカルデザイン研究所(IMD: Institute of Medical Design)主催、上條記念ミュージアム共催で開催されています。IMD主催の「医療を支えるデザイン」をテーマとしたプログラムに参加した多摩美術大学プロダクトデザイン専攻の学生作品を中心に、今年度設立されたIMDの医療現場のQOL (Quality of Life) を高めるための試みを展示しています。



【開館】

火曜日・金曜日

13:00～15:00 (予約制)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和大学生生活協同組合

旗の台: 3788-2322 (内線) 8268 アミ: 3785-9729 (内線) 8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

昭友商事株式会社

昭和大学の皆さまへ

便利なサービス・商品を提供します!

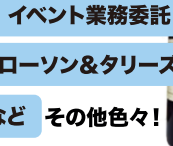
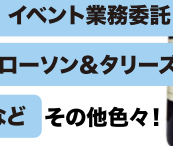


昭和大学富士吉田の天然水

昭和大学オリジナルワイン

QUOカード・VJAギフトカードなど

その他色々!



お気軽にお問い合わせください! ☎ 3784-8280

総務部

昭和大学サポート寄付制度に
ご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

同窓／河村 栄一 様（医学部・44回生）、河村 文代 様（医学部
43回生）、新村 ヨシオ 様（医学部・44回生）、鈴木 仁一 様（医
学部・34回生）、光谷 俊幸 様（医学部・41回生）

職員（50音順）／稲富 誠 様、木内 祐二 様、九島 巳樹 様、本
間 元康 様

一般／株式会社映像システム 様、株式会社きんでん 様、三協立
山株式会社 様、日本ピーマック株式会社 様、能美防災株式会社
様、野瀬 清 様、政本 多美子 様

【医学部への寄付】

父母／関根 理 様

【薬学部への寄付】

父母／岡野 彰文 様、鈴木 豊一 様

【横浜市北部病院への寄付】

一般／臼井 孝夫 様、臼井 ロビン 様、コレア 様、K.K 様、横浜
都筑ロータリークラブ 会長 星川 晃一郎 様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／藤岡 裕久 様（医学部・55回生）、三橋 裕一 様（医学部・
62回生）、安斉 尚子 様（医学部・57回生）

※収納期間：10月1日～11月30日

※本学広報媒体への掲載に同意していただいた方のみといたします

創立100周年記念事業募金
ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えま
す。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診
療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念
事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重
要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道
のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同い
ただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



今号の表紙写真

9月号で公募した新年号の表紙写真には、10作品を超える応募
の中から、医学部生化学講座・講師の原口省吾さんの写真を選定
しました。早朝、北岳山頂からの富士山です。雲海が広がる中、雲
から顔を出した富士山、とても神秘的な光景ですね。多くの方から
ご応募いただき、誠にありがと
うございました！

2025年4月1日、昭和大学は
「昭和医科大学」へ。社会に貢
献できる優れた医療人を育成す
る大学として更なる発展を目指
します。そして、創立100周年
に向け躍進を続けていきます。



SHOWA
UNIVERSITY
NEWS vol. 14



学校法人 昭和大学 (03) 3784-8000
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

Dec. 2024 - Jan. 2025
昭和大学新聞 通巻第623号
令和7年1月31日発行
年6回発行

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係
(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見や感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社



【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

※次号は4月号（4月1日発行）となります。

！個人情報の取扱いにご注意ください

昭和大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することではできませんので、取扱いにはご注意ください。